

刑法 出題の意図

問題1

刑法各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1) は、殺人罪と堕胎罪の適用領域を区別するにあたり重要な概念であり、生命・身体に対する罪の理解の出発点となるものである。通説である一部露出説をはじめとした学説の内容およびなぜそのような対立が生じているのかに関する基本的な理解を問う。

(2) は、罪を犯した者が自らの検挙を避けようとする心理が人間として理解できることであり非難可能性を減じるものであることを出発点としつつ、一方で他者を巻き込むことに同様の理屈が当てはまるかに関する見解の対立が理解できているかを問う。

問題2

身分犯と共犯という刑法総論上の典型論点を問う事例問題である。刑法65条の趣旨および適用の方法に関する基礎的な理解を前提に、賭博罪および保護責任者遺棄罪について適切に当てはめができるかを問っている。特に、後者については単純遺棄罪には不真正不作为犯が存在しないとされることとの関係を踏まえ如何に適切に理論構成できるかが重要であるとともに、Xが正犯性を獲得するかについての正しい認定も問われる。